

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



北海道 JAピンネ

組合員とのこまめな対話を通じて、 高品質米の生産につなげる

P JAピンネでは、営農渉外担当職員が正組合員宅を訪問し、生産者との継続的な対話を通して、米を中心に農畜産物の品質向上につなげ、農業者の所得増大を目指しています。

D 営農渉外担当職員による正組合員の全戸訪問や全職員による毎月の農事組合*訪問活動の中で、営農指導をはじめ、土壌分析結果等の提供や生産資材等の推進、各部署からの情報提供などを行っています。

また、農業の人手不足の中で、人材派遣のニーズを組合員から聞き取り、人材派遣会社と連携して労働力の斡旋にも取り組んでいます。

*集落ごとの組合員の組織であり、JAピンネの基礎組織にあたる。

A 組合員との対話を通じて頂いた評価や意向をふまえ、取り組み施策の点検・見直しを実施します。

農業者の所得増大に向けて、さらなる取り組みを進めます。

C 営農渉外担当職員による正組合員の全戸訪問や、全職員による毎月の農事組合訪問活動の機会を通じて、JAの取り組みに対する組合員の意見や要望を収集し、常勤役員を含め、情報共有を行っています。

組合員からは、「JAが土壌分析結果を提供してくれて、適切な施肥の参考になっている」という声や、「春先の田植えの時期を中心に人材が不足するので、JAが人材を斡旋してくれて助かる」という声を頂いています。

組合員とのこまめな対話を通じた営農指導や労働力斡旋などのさまざまな取り組みが、組合員とJAとの信頼関係の構築につながっています。

営農渉外担当職員による正組合員一戸当たりの訪問回数

22年度実績 年9回(平均)

全職員による農事組合訪問回数

22年度実績 延べ372回



JAの営農渉外担当職員(写真・左から2人目)による訪問活動の様子。組合員の圃場で水稻の生育状況を確認している。

